本　会　会　報

学会だより

◇ 会員の栄誉

殿崎薫会員が「2025 年度（第 24 回）日本農学進歩賞」を受賞

本会会員の殿崎薫氏（横浜市立大学木原生物研究所）は「ゲノムインプリンティング制御によるイネ胚乳の生殖的隔離打破」に関する功績により，2025 年度（第 24 回）日本農学進歩賞」を授与されました.

日本農学進歩賞は，人類と多様な生態系が永続的に共生するための基盤である農林水産業およびその関連産業の発展に資するために，農学の進歩に顕著な貢献をした者を顕彰ことを目的としています.

◇ 令和 7 年度第 2 回運営委員会議事録

日時：2025 年 8 月 9 日（土）13:30 ～ 18:00
場所：東京大学農学部 1 号館の 4 番教室と Web 会議システム（Zoom）による開催
出席者（現地）：中園幹生，福岡浩之，岩田洋佳，髙橋宏和，津田麻衣，南川舞，古川一実，磯部祥子，石川亮，堀清純，加藤浩，小出陽平，山内卓樹
出席者（オンライン）：津釜大侑，半田裕一，山田哲也，阿部陽，山本敏央，山形悦透，白澤健太
欠席者：渡邉和男，掛田克行，那須田周平

各運営委員からの活動経過報告の後，以下の事項について審議を行った.
①石原（志方）守一奨学金，成山堂書店の出版依頼，市民公開シンポジウムの開催（総務）
②投稿規定の改訂，編集委員の退任，新編集委員の推薦，SNS による BS の情報発信，APC の検討，会員の啓蒙（編集（英文誌））
③プレスリリースの取扱い（編集（和文誌））
④ 2026 年の育種学会創立 75 周年記念シンポジウム（シンポジウム委員会）

◇ 第 20 回代議員会議事録

日時：2025 年 9 月 6 日（土）13:00 ～ 18:00
場所：Web 会議システム（Zoom）による開催
（理事・運営委員・監事・各種委員）
出席：中園幹生，福岡浩之，岩田洋佳 *，髙橋宏和，津田麻衣，津釜大侑，半田裕一，南川舞，山田哲也，阿部陽 *，古川一実 *，山本敏央 *，山形悦透 *，磯部祥子，石川亮 *，堀清純 *，白澤健太，掛田克行，加藤浩，小出陽平，山内卓樹，奥本裕，川浦香奈子【23 名】
欠席：那須田周平 *，渡邉和男【2 名】
（令和 6・7 年度代議員）
出席：久保友彦，山田哲也，小出陽平，加藤清明，高橋秀和，阿部陽 *，笹沼恒男，深井英吾，堀清純 *，加賀秋人，吉岡洋輔，久保山勉，平野久，大西孝幸，岩田洋佳 *，井澤毅，伊藤純一，犬飼義明，古川一実 *，佐藤豊，溝淵律子，土屋亨，石川亮 *，築山拓司，山本敏央 *，門田有希，山形悦透 *，一谷勝之，谷中美貴子，渡邊啓史【31 名】
委任状（議決権行使）：田中克典，石井卓朗，井川智子，有村慎一，堤伸浩，村井耕二，佐塚隆志，横井修司【8 名】
欠席：江面浩，那須田周平，杉田左江子【3 名】
* 上記の役員・委員と代議員を兼任
議長：代表理事（中園幹生）
議事録：総務担当運営委員（津田麻衣）

出席者数は代議員会の定足数（過半数）を満たしていた.

1. 報告事項
（ア）運営委員会報告（各運営委員）
総務：会員数，冊子発行部数，Web サイト更新・メールニュース配信，契約，シニア会費制度利用申請，共催・協賛・後援，出版依頼，会開催予定
IT・HP：Web サイトのアクセス解析，固定ページの更新
科研費：研究成果公開促進費（研究成果公開発表：シンポ科研，国際情報発信強化：BS 科研）
会計：2024 年度中間決算，科研費外部監査の謝金について，地シンポジウムにおける依頼講演での旅費・謝金の扱いについて，ワークショップ非会員演者への謝金の支払いについて，会費のクレジットカード決済導入について，地域活動費の増額について，石原（志方）守一奨学金の財源について，学会予算の使途について
編集（英文誌）：編集状況，企画総説，特集号，BS 宣伝メール，日本育種学会論文賞の審査，編集委員の退任，BS ワーキング，会員の啓蒙
編集（和文誌）：品種育成に関するプレスリリースについて
集会：2025 年秋季大会，今後の大会開催予定，2025 年秋季大会の詳細
農学会：2025 年度日本農学大会，2025 年度日本農学会シンポジウム，2026 年度日本農学会シンポジウムテーマ，（公財）農学会より「第 24 回日本農学進歩賞」受賞候補者推薦依頼，日本農学賞受賞候補者の推薦
記者発表：第 148 回講演会　記者発表開催予定日時・方法，記者発表対象課題，記者発表希望演題数

LMO・ABS：LMO 関連，ABS 関連，その他
地域（北海道，東北，中部，近畿，中国・四国，九州・沖縄）：談話会の開催および開催予定

2. 審議事項
（ア）通常決議議案：令和 7 年日本育種学会賞の選考について
学会賞等選考委員長より以下の 3 課題の日本育種学会賞候補の推薦理由について説明があった.
（1）宇賀優作（農業・食品産業技術総合研究機構作物研究部門）「イネ根系形態に関する遺伝育種学的研究」
（2）吉田均（農業・食品産業技術総合研究機構生物機能利用研究部門）「イネの生殖成長関連遺伝子の作用機構解明と分子育種への応用」
（3）水稲品種「富富富」育成グループ（代表者：小島洋一朗）「遺伝子ピラミディング技術を活用した高温登熟耐性水稲品種「富富富」の育成」
投票の結果，代議員出席者の 3 分の 2 以上の賛成票を得て 3 件とも承認された.
（イ）通常決議議案：令和 7 年日本育種学会賞（特別賞として授与）の選考について
学会賞等選考委員長より以下の 1 課題の日本育種学会賞（特別賞）候補の推薦理由について説明があった.
（1）放射線育種場（代表者：永冨成紀）「放射線突然変異育種に関する基盤技術の確立と品種育成への貢献」
投票の結果，代議員出席者の 3 分の 2 以上の賛成票を得て承認された.
（ウ）通常決議議案：令和 7 年日本育種学会奨励賞の選考について
学会賞等選考委員長より以下の 3 課題の日本育種学会奨励賞候補の推薦理由について説明があった.
（1）實友玲奈（帯広畜産大学環境農学研究部門）「バレイショの種間雑種による有用遺伝子導入と一代雑種品種の開発をめざした遺伝的基盤の確立」
（2）竹島亮馬（農業・食品産業技術総合研究機構作物研究部門）「ソバのゲノム育種基盤の構築および異型花形自家不和合性の分子機構」
（3）西村和紗（岡山大学学術研究院環境生命自然科学学域）「遺伝子探索および品種育成を効率化する高速ジェノタイピングシステムの構築」
投票の結果，代議員出席者の 3 分の 2 以上の賛成票を得て 3 件とも承認された.
（エ）通常決議議案：第 22 回（令和 6 年）日本育種学会論文賞の選考について
学会賞等選考委員長より以下の 3 報の日本育種学会論文賞候補の推薦理由について説明があった.
（1）Single candidate gene for salt tolerance of *Vigna nakashimae* (Ohwi) Ohwi & Ohashi identified by QTL mapping, whole genome sequencing and triplicated RNA-seq analyses
掲載巻（号）・頁：Breeding Science 74 (2): 93–102
著者：Miho Ito, Honami Ohashi, Masahiro Takemoto, Chiaki Muto, Takashi Seiko, Yusaku Noda, Eri Ogiso-Tanaka, Atsushi J. Nagano, Yu Takahashi, Jun Furukawa, Yuki Monden, Ken Naito
（2）Whole-genome resequencing of Japanese large-sized tomato cultivars provides insights into the history of modern breeding
掲載巻（号）・頁：Breeding Science 74 (4): 344–353
著者：Eiji Yamamoto, Hiroshi Matsunaga, Akio Ohyama, Tsukasa Nunome, Hirotaka Yamaguchi, Koji Miyatake, Kenta Shirasawa, Sachiko Isobe
（3）Polyploid QTL-seq revealed multiple QTLs controlling steamed tuber texture and starch gelatinization temperature in sweetpotato
掲載巻（号）・頁：Breeding Science 74 (2): 103–113
著 者：Hiromoto Yamakawa, Tatsumi Mizubayashi, Masaru Tanaka
投票の結果，代議員出席者の 3 分の 2 以上の賛成票を得て 3 件とも承認された.
（オ）通常決議議案：石原（志方）守一奨学金について
2026 年度まで同名での奨学金を継続し，その原資は育種学会から提供すること（その旨を HP にも記載），および 2026 年以降も HP に受賞歴を残すことが提案され，審議の結果承認された.
審議の結果，承認された.
（カ）通常決議議案：投稿規程の改訂
オープンアクセスの宣言，初回投稿時の原稿スタイルの自由化，APC の金額，条件の明示，ORCiD の利用，論文管理ソフトのスタイルファイルの提供，ハイライト文章とグラフィカルアブストラクトの収集を受信メールに記載することが提案され，審議の結果承認された.
（キ）通常決議議案：新編集委員の推薦
新編集委員として Dr. LauraRossini，Dr. Yann-rong Lin，Dr. Wang Cailin，遠藤真咲氏，江花薫子氏，鐘ヶ江弘美氏，田中若菜氏，藤田直子氏，南川舞氏が推薦があり，審議の結果，承認された.
（ク）特別決議議案：定款の改正
理事の人数を 3 名以上とする定款の改正案について提案があり，審議の結果，承認された.
（ケ）通常決議議案：運営内規の改正
定款の改正にともなう，運営内規の改正案について提案があり，審議の結果，承認された.
（コ）特別決議議案：会長指名理事の選任について
会長指名理事として幹事長岩田洋佳氏を選任することが提案され，審議の結果，承認された.

3. その他
（ア）関連報告
①シンポジウム委員会

札幌大会のシンポジウムおよびワークショップの概要が紹介された.

② D&I 推進委員会

第 148 回のランチタイムセミナーの実施内容が報告された．今回のセミナーは整理券を企業展示会場で配布予定であることが報告された.

③日本学術会議育種分科会委員

学術会議の法人化のための作業が進められていることが報告された．育種分科会では定期的にウェビナーを実施しており，2 回目の演者等が報告された．産業生物バイオテクノロジー分科会では，ゲノム編集技術に関する見解を出す調整を行っているが，育種分科会でも審議して見解を出すように進めていることが報告された.

④公益財団法人農学会農学教育推進委員会委員

農学系学部への高校生の進学説明を行うにあたり育種学会からの推薦について報告があった.

（イ）その他

①第 148 回講演会優秀発表賞の選考について

総務担当からオンライン投票に関する説明と投票依頼があった.

◇ 記者発表報告

（1）第 148 回講演会選定課題に関する報告

発表日時：令和 7 年 9 月 3 日（水）13:00 ～ 14:30

発表場所：東京大学農学部キャンパス 1 号館 5 番講義室，オンライン（ハイブリッド形式）

出席者：岩田洋佳（幹事長），津釜大侑（記者発表担当運営委員），戸田悠介・若月ひとみ（課題 1），柳沢朗（課題 2），松村英生（課題 3）

参加報道機関：日本農業新聞，日刊工業新聞，共同通信，時事通信，朝日新聞，毎日新聞，読売新聞，東京新聞・中日新聞，北海道新聞，計 9 社・9 名

令和 7 年 9 月 10 日（水），11 日（木）に札幌コンベンションセンターで開催される日本育種学会第 148 回講演会の講演課題（計 265 課題）の中から運営委員会によって選定された以下の 3 題について，記者会見を実施した.

発表タイトル（記者発表）:

①温暖化による水稲品質への影響の実態解明と高温耐性品種の評価技術の開発

②新品種育成が全国および各地方の小麦収量向上にどのように貢献したか

③日本在来のクワを求めて

講演タイトル（第 148 回講演会）:

①講演番号 513「今世紀に入ってからの温暖化傾向が全国の水稲の 1 等米比率に及ぼした影響および高温耐性品種導入効果の推定」長谷川利拡，若月ひとみ（農研機構・農業環境研究部門）

講演番号 514「水稲白未熟粒率発生モデルと圃場実験を用いた品種の高温登熟性格付け支援の試み」若月ひとみ [1]，鈴木雄一 [2]，平山正賢 [2]，石川春香 [2]，中野月音 [2]，長谷川利拡 [1]（1. 農研機構・農業環境研究部門，2. 茨城県農業総合センター生物工学研究所）

講演番号 515「システマティックレビューで収集した全国圃場実験データの再解析によるイネ品種の高温登熟性の定量的評価」戸田悠介，若月ひとみ，石郷岡康史，長谷川利拡（農研機構・農業環境研究部門）

（以上 3 課題で 1 トピック）

②講演番号 709「品種育成は国内産小麦収量の向上にどう貢献したか」柳沢朗（道総研フェロー，カルビーポテト）

③講演番号 717「日本在来のクワは残っているのか？」松村英生 [1]，平内海斗 [2]，吉信智史 [2]，清水諒 [2]，鈴木未来 [2]，溝口暁久 [2]（1. 信州大・遺伝子，2. 信州大院・総合理工学）

岩田が諸注意を述べた後，それぞれの課題の発表者がレジュメを用いて発表内容について自ら説明し，質疑応答を行った．記者会見後，講演番号 513・514・515 に関する記事が日本農業新聞（9/24）に掲載された.

（2）第 147 回講演会選定課題に関する報告

第 147 回講演会における講演番号 413「半世紀以上眠るイネ在来品種遺伝資源の凱旋復活に向けて」（石井尊生 [1]，Lim Sathya[1]，Orn Chhourn[2]，石川亮 [1]，齊藤大樹 [3]，佐藤豊 [4]（1. 神戸大・院農学，2. カンボジア・農業研究開発研究所，3. 国際農林水産業研究センター・熱帯島嶼研究拠点，4. 国立遺伝学研究所）に関する記事が，毎日新聞（8/28）に掲載された.

◇ 第148回講演会日本育種学会優秀発表賞報告

2025 年日本育種学会秋季大会（第 148 回講演会）における日本育種学会優秀発表賞が下記の 10 演題に決定された.

講演番号 114：主要作物ギニアヤムにおける性決定候補 miRNA の特定

☆工藤葵 [1]，杉原優 [2]，井関洸太朗 [3]，松本亮 [4]，美濃地弘樹 [1]，小内清 [1]，阿部陽 [5]，夏目俊 [5]，堺俊之 [1]，及川香梨 [5]，清水元樹 [5]，伊藤和江 [5]，安達広明 [6]，本田晃大 [1]，山中愼介 [3]，Patrick Adebola[4]，Asrat Asfaw[4]，寺内良平 [1]（1. 京都大・農，2. The Sainsbury Laboratory，3. 国際農研，4. IITA，5. 岩手生工研，6. 北大・先端生命）

講演番号 119：カキ品種群における果実形質のゲノム育種研究

☆堀内綾乃 [1,2]，尾上典之 [3]，松崎隆介 [3]，西村和紗 [2]，白澤健太 [4]，久保康隆 [2]，牛島幸一郎 [2]，赤木剛士 [2]，南川舞 [5]（1. 千葉大・院園芸学研究科，2. 岡山大・院環境生命自然科学研究科，3. 農研機構・果茶研，4. かずさ DNA 研究所，5. 千葉大・国際高等研究基幹）

講演番号 204：ATAC-see を用いたオープンクロマチン

のイメージングに基づくイネ茎頂メリステムのクロマチン状態の解析
☆森下友梨香[1]，髙田崚輔[2]，吉田綾[2]，肥後あすか[2]，原田哲仁[3]，辻寛之[2,4]（1. 名大院・生命農学，2. 横浜市大・木原生研，3. 九大院・医学，4. 名大・生物センター）
講演番号 205：成長相転換の最初期にイネの茎頂メリステムで生じる発生学的変化
☆本多萌恵[1]，田中真理[1]，田中若奈[2]，辻寛之[1,3]（1. 横浜市大・木原生研，2. 広島大院・統合生命，3. 名大・生物センター）
講演番号 219：二種類の不等分裂を介するイネの気孔形成の遺伝的制御機構の解析
☆味谷雅之[1]，髙梨秀樹[2]，佐藤豊[1]，伊藤純一[2]（1. 国立遺伝学研究所，2. 東大・院農学生命科学）
講演番号 220：イネ捻れ葉変異体における葉身の左右非対称性と器官間物理的相互作用による捻れ発生メカニズム
☆曳地究[1]，岡田脩平[1]，徳山芳樹[2]，三浦誠一郎[1]，田口みなみ[1]，貴島祐治[1]，高牟禮逸郎[1]，小出陽平[1]（1. 北海道大学大学院農学院，2. 国立遺伝学研究所）
講演番号 411：広範囲・高分解能：イネ根系の酸素ダイナミクス観測を可能にする新二次元酸素オプトードの開発
☆芝日菜子[1,2]，江上泰広[3]，清田悠生[3]，塩野克宏[1]（1. 福井県大・院生物資源学，2. 学振・特別研究員，3. 愛知工大・機械学科）
講演番号 713：効率的なトマト F_1 種子生産を目指した稔性回復系統の開発と稔性回復機構の解明
☆桑原康介[1]，中嶋梨花[2]，ヴァンボストラエテン アレクシス[3]，江面健太郎[4,5]，鳥山欽哉[1]，有泉亨[5]，白澤健太[6]（1. 東北大・院農学，2. 東大・院農生，3. 筑波大・院理工情報生命，4. 国際農研，5. 筑波大・生命環境系，6. かずさ DNA 研）
講演番号 716：葉緑体パンゲノミクスで遡る栽培メロンの起源
☆鴫田玄太郎[1]，大熊眞歩[2]，十河奈々[3]，清古貴[4]，武藤千秋[4]，田中克典[5]，下村晃一郎[6]，杉山充啓[6]，川頭洋一[6]，江面浩[1]，内藤健[4]，友岡憲彦[4]，加藤鎌司[2]（1. 筑波大・生命環境，2. 岡山大・院環境生命自然，3. 岡山大・院環境生命，4. 農研機構・遺伝資源研究センター，5. 弘前大・農生命，6. 農研機構・野菜花き研究部門）
講演番号 P217：葯が裂開しない細胞質雄性不稔性イネの種子増殖を目指したオミクス解析
☆高塚歩[1,2]，風間智彦[1]，鳥山欽哉[2]（1. 九州大・院・生物資源環境化学，2. 東北大・院・農）

研究助成公募等の案内

◇ 公益財団法人タカノ農芸化学研究助成財団 2026 年度研究助成公募のお知らせ

2026 年度研究助成対象者募集要領

本財団は，農学，特に農芸化学（生物資源等）に関する学術研究を助成し，もって学術研究の発展に寄与することを目的とし設立されました．本年度も，農芸化学等に関する研究を行っている大学等の研究機関の研究者に対し，研究助成金を交付いたします．特に，若手研究者への助成の枠を設け，今後の当該分野の研究促進に役立ちたいと考えています．2026 年度助成対象者は次の要領で募集いたします．

1. 研究分野：（1）豆類や穀類の生産技術（栽培，育種，植物栄養，根圏微生物等）に関する研究，（2）豆類や穀類，並びにそれらの加工品の食品機能（栄養機能，嗜好機能，生体調節機能等）に関する研究，（3）豆類や穀類の加工，保蔵，流通技術に関する研究，並びにそれらの発酵に関連する微生物や酵素の探索，特性，利用に関する研究
2. 研究助成対象者：（1）国内の大学，短大の研究者（大学院生も含む），（2）国公立並びに国立研究開発法人等の研究機関の研究者，（3）その他本財団の理事会において適当と認められた研究者
3. 交付要件：（1）研究内容については，創造的，先進的であり，その研究の成果が広く学術研究等に資することが期待できること．（2）助成金の交付により著しく研究の成果が得られるものであること．（3）助成金を必要とする研究の計画と費用に合理性があること．（4）研究の成果は，1. 本財団の事業として公表すること，2. 所属する学会で発表すること，3. 本財団が発行する研究成果報告書又は本財団主催の研究報告会で発表すること．（5）本財団所定の用紙による申請であること．申請書には助成を希望する研究課題，目的，計画・手法，所要経費等必要事項が明示されていること．
4. 助成金額：（1）一般部門（年齢制限なし）1 件当たり　100 万円を 7 件程度，（2）若手部門（40 歳未満）1 件当たり　50 万円を 6 件程度　※若手部門は，1985 年（昭和 60 年）4 月 1 日以降生まれの方
5. 助成期間：助成期間は 1 年とします．（2026 年 5 月～ 2027 年 4 月）
6. 申請手続き及び締切期日：財団所定の申請書に必要事項を記入の上，2026 年 1 月 9 日から 3 月 4 日（必着）までに財団理事長宛てに郵送してください．尚，申請書用紙は，以下の URL（https://www.takanofoods.co.jp/company/foundation/subsidy.html 問い合わせ先」からダウンロードできます．
7. 交付時期：2025 年 5 月予定
8. 〒 311-3411　茨城県小美玉市野田 1542 番地　公益財団

法人　タカノ農芸化学研究助成財団　理事長　髙野成徳
9. その他：同一研究課題で，他の団体等へ応募され，かつ，本年度重複助成となられた場合には，助成をできない場合がありますのでご注意下さい.
・過去助成研究テーマ検索 http://www.takanofoods.co.jp/company/foundation/
10. 問い合わせ先：タカノフーズ（株）内　財団事務局，TEL: 0299-58-4363，FAX: 0299-58-3847，E-mail: tazaidan@takanofoods.co.jp

日本育種学会会員異動（2025.4.21〜2025.10.20）

◇**普通会員入会**：時園佳朗，石黒浩二，王莎莎（北海道），吉田英樹（福島県），小川泰生，郷内武，長谷川利拡，若月ひとみ，永冨成紀，和田朋美（茨城県），赤石和也（群馬県），田中一生（東京都），中村充，鈴木太郎（愛知県），安田晋輔（滋賀県），井上喜博（京都府），BENJAMIN EWA UBI（鳥取県），植田早紀（香川県），勝田瑞皐（熊本県），田中啓二郎，安部良樹（大分県）
◇**学生会員入会**：山下まつり，小栗健太，北川拓実，玉本祐一郎，石津有悟，矢島由創，山田佳奈，柚木創太，塩﨑兄典，岩山大介，須田昌義，山口真琴，久野あゆみ（北海道），直江彩花，高橋広大，小和田篤熙（宮城県），三上圭祐（秋田県），岡田華那，山田康生，長澤恵里奈（山形県），諸江慧一，SUDARTI BINTI ASRI，HO THI MINH（茨城県），宮川莉和（栃木県），染谷陸，高田滉平，柚木梓菜（千葉県），犬島愛乃，振原茉菜，松本綾奈，日高滉大，鷲見知夏，谷口遥星，清宮唯矢，小島百香，樽本ひなの，髙橋祐樹，玉井陽日，朱恬，橋本将，砂川隼秀，NOWROZ FARZANA（東京都），三石涼太，星野宏弥，本多萌恵（神奈川県），黒木康士朗，鍬田健人，田代莉乃，森山桐（新潟県），清水さとみ，大石睦月（石川県），井元洸志，江守祐汰郎，平野羽留（福井県），神林友輔（長野県），山田真理子，見上心音，植田哲仁，丹羽祐麻（静岡県），後藤万里奈，小島朋香，岡田孟久，石田由吉，横井遥佳，舟山枝里，谷舞子（愛知県），眞玉橋將央（三重県），富士原昂大，浅川朋香（滋賀県），曽田圭一，李雲飛（京都府），古田裕大，川本有姫，山田深晴，SARKER KISHORE KUMAR，AKHI PAUL CHOWDHURY，松原直大（兵庫県），ARIKPO GRACE EMMANUEL，龍紋菜，IKPA-AGODO KINGSLEY IKENNA（鳥取県），小林ひなた，吉川大智，高野仁菜（岡山県），弓矢誠（広島県），Hsu Yi Mon，原希帆，天野晴仁，井上結実（福岡県），望月遼太（熊本県），奈良迫洋介，菅原まなみ（宮崎県），渡真利隼，関亦岳，與那嶺圭祐，藤原七海（沖縄県）

住所変更等

◇**普通会員**：手塚拓海（岩手県），法隆大輔，松元哲，松中仁，黒木慎，後藤新悟，谷口昇志，蒲池行美（茨城県），竹島亮馬，武藤直氣（埼玉県），菅野明（千葉県），鈴木茂，塔野岡卓司（東京都），石井卓朗，石森元幸（神奈川県），徳山芳樹（静岡県），柿崎智博（三重県），吉川貴徳（京都府），白柿薫平（大阪府），妻鹿良亮（兵庫県），内海好規（広島県），山口聰（愛媛県），松原一樹，川口謙二（福岡県），中嶋健太（熊本県）
◇**学生会員**：福島和紀（神奈川県），高橋龍成（滋賀県），小久保裕貴（岡山県）

逝去

武田和義（岡山県，名誉会員），高畑義人（岩手県）
慎んでご冥福をお祈りいたします.